

市民協働事業 相互評価シート

1 市民協働事業の概要

事業名称	令和元年度 港北水と緑の学校事業		
事業の実施者	団体等	特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク	
	行政	横浜市港北区	
事業の目的	港北区において、環境活動や防災活動が継続的に地域に根づくことを目指し、学校と連携し、流域の自然環境と防災などについて学習する体験型講座を実施する。また、広く一般区民向けの環境防災学習講座を実施する。		
事業の内容	(1) 小学校を対象とした環境防災学習講座の運営（18回） (2) 一般区民を対象とした環境防災学習講座の実施（2回） (3) 展示会（巡回展2回）の運営 (4) 報告書作成		
役割及び責任 分担等	事業項目	受託者の役割	委託者の役割
	①小学校を対象とした環境防災学習講座の運営(18回)	1 講座の企画及び運営 2 参加校との事前打ち合わせ 3 教材・資料等の作成 4 アンケートの実施回収	1 参加校の募集・申込受付 2 教材・資料等の印刷 3 広報・PR
	②一般区民を対象とした環境防災学習講座の実施(2回)	1 講座の企画及び運営 2 協力者との事前打ち合わせ 3 ちらしの版下作成・印刷 4 参加者募集事務 5 教材・資料等の作成・印刷	1 広報・PR
	③展示会の運営	1 展示会の企画及び運営 2 会場提供者との連絡調整	1 広報・PR
	④報告書作成	1 ①～③に関する報告書の作成	
⑤その他	1 第2条の事業目的を実現するために効果的と思われる取組の委託者への提案	1 上記①～④の他、第2条の事業目的に寄与する、受託者の自主的活動への後援や広報協力 (後援については、委託者が定める要綱に基づく申請を要する)	
実施期間	契約締結日から令和2年3月19日まで		

記入日	令和2年6月29日
・団体等名：	特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーク
・記入責任者 氏名：	阿部 裕治
連絡先：	045-546-4337
・部署名：	港北区区政推進課
・記入責任者 氏名：	亀田 裕佑
連絡先：	045-540-2230

1 事業実施プロセス相互チェックシート

このチェックシートは、事業実施に伴う、それぞれの段階で、必要なことができていたかどうか、相互にチェックをおこなうシートです。相互の視点からチェックを行い、その後、「2 事業評価相互検証シート」で総合的な評価検証をおこないます。

◎相互チェックシートの評価基準

よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	まったくできなかった
A	B	C	D

①事業計画段階

		団体等	行政
1	自分たちが達成すべき大きな目的やミッションについてよく話し合うことができましたか。	A	A
2	お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	A	A
3	ニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めてことができましたか。	A	A
4	実現のためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	A	A
5	会計のルール等、お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	A	A
6	事業を始めることや計画中であることを、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	B

②事業実施段階

		団体等	行政
1	率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	A	A
2	お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	A	A
3	相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A
4	事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	A	A
5	必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	A	A
6	事業終了後の見通しについて、話しながら取り組むことができましたか。	A	A
7	事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	A	A

③ふりかえり段階

		団体等	行政
1	協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有できたか。	A	A
2	受益者が満足を得られたかどうかについて、話し合っ確認することができたか。	A	A
3	これまでを振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができたか。	A	A
4	期待された事業成果を得られることができたか。	A	A

3 事業評価相互検証シート

事業実施プロセス相互チェックシートでおこなった結果をもとに、相互で本検証シートを作成します。

事業の計画づくり

(協働して事業計画をつくるにあたり、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 熱中症対策として、昨年度より実施時期を早める、暑さが厳しい時期(7月～9月上旬)の野外講座を設定しないことで、安全な事業の計画づくりができた。
- 一般向け講座での展示会に向けたメッセージカードの導入など、より広がる工夫をすることができた。
- 展示会では、より多くの方に身近な鶴見川の自然に興味をもってもらえるよう出前水族館を企画した。

【今後改善が必要と思われること】

- 小学校向け講座について、学校への日程調整等連絡は、どのような優先順で行われるのか明記してほしいという意見があった。講座希望日や潮汐で日程が限定される場合等を考慮して、順番に行っていたが、学校側にも分かるよう今後は、分かりやすく記載するようにしたい。

事業実施

(協働して事業を実施した結果、お互いに共有できたことや認識に違いがあったこと、今後、改善が必要と思われることはどのようなものですか。)

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- 事業の目的を共有することで、一般向けの環境防災学習講座を対象者の興味に合わせるように配慮して事業を実施することができた。その結果、敷居の高い内容も分かりやすく参加者に受け入れてもらうことができた。
- 野外講座の実施判断の1つとして、熱中症の影響を考慮し、「気温32℃以上もしくは暑さ指数28℃以上」は延期・中止するという条件を追加した。スタッフは、熱中症計を携帯し、数値が高くなった場合は早めに日陰に入って休憩するなど安全な対応をとった。体調が悪くなった児童がいた場合は、講座後に報告して情報を共有した。
- 一般向け講座では、生きもの探しの際にビンゴシートを用いるなど参加者がより興味をもって探せるように工夫した。

【今後改善が必要と思われること】

- 令和元年度末からは日本でも新型コロナウイルスの感染が拡大している。講座を実施するにあたって学校等とよく情報を交換し合い、3密に配慮した無理のない運営をしていく必要がある。

事業の成果

(協働して事業を実施した結果、当初期待された事業効果がどのような成果となりましたか。)

- 進捗状況等の情報を共有し、必要に応じて対応の改善を図りながら、安全で効果的な講座が運営できるよう進めることができた。
- 小学校向けの講座では、体験活動で子どもたちが足もとの自然とつながることによって、身近な自然に対する意識が変容し、興味関心が深まり広がっていく。それは大人そして地域社会を変える大きな原動力となるため、今後も子どもたちが安全で魅力的な体験ができるよう継続して対応していきたい。
- 展示会でのイベントを改善することで、子どもたちが関心を抱きやすいよう工夫することができた。ミズキーグリーンティング、鶴見川流域水族館、お魚釣り(おもちゃ)などを行い、未就学児や生きものに

関心がある大人なども多く訪れ、事業の活動を知っていただくことができました。

○事業の発信 一般向け講座は、広報効果が高い地域のインターネット新聞社にも協力いただいて広報した。展示会では、展示会場となったトレッサ横浜、鶴見川流域センターからも WEB チラシや紙面のチラシで広報を行い、周知を図った。

○鶴見川流域水マスタープランの推進に大きく寄与できた。

鶴見川や支流の早淵川、矢上川で行った生きもの採集・観察等の活動や、出前講座の水害、治水対策、水質改善等の解説を通して、水マスタープランの洪水時水マネジメント、平常時水マネジメント、自然環境マネジメント、水辺ふれあいマネジメントの理解に寄与することができた。

自由記入欄

○協働の体制をとることで、相互の立場を理解し互いに補い合うことができた。